

感染症情報 9月23日～29日

府下小児科196医療機関(堺市19)から

①RSウイルス感染症	755例(堺市 103例)
②感染性胃腸炎	560例(堺市 29例)
③溶連菌感染症	282例(堺市 31例)
④手足口病	166例(堺市 17例)
⑤伝染性紅斑	120例(堺市 10例)

府下インフルエンザ定点300医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 90例(堺市 4例)

感染症報告数は前週比11.7%減の2,207件であった。

報告数の第1位はRSウイルス感染症で、以下、感染性胃腸炎、溶連菌感染症、手足口病、伝染性紅斑の順であった。

RSウイルス感染症が府下で9%減、堺市で89例→103例(16%増)であった。府下の定点あたりは4.25→3.85、同堺市で4.68→5.42である。感染性胃腸炎は府下で前週と比較して18%減、堺市では33%減であった。溶連菌感染症は府下で前週とほぼ同数、堺市で22例→31例は41%増であった。手足口病は府下で31%減、堺市で13例→17例であった。伝染性紅斑は府下で22%増、堺市で13例→10例であった。

インフルエンザが府下で前週115例→今回90例は22%減で、定点あたり0.38→0.30である。堺市では前週5例→今回4例であった。

麻疹や風疹の報告はなかった。